

●監査業務

入社前から希望していた自動車メーカーの担当に 監査を通じてグループへの理解を深めることができる

私は自動車メーカーのクライアントを担当しており、主に本社における新システム移行に関する監査や内部統制監査を手掛けています。出身は岐阜県で、高校在学中に会計士になることを決め東京の大学在学中に会計士試験に合格しました。地元近く、大手自動車メーカーも存在していることからPwCあらた名古屋事務所を志望しました。入社2年目から希望していたクライアントの担当となり、同社の監査を通じてグループについての理解を深めることができました。名古屋事務所は自動車関連のクライアントも数多く抱えており、原材料の生産から自動車消費者の手元に届くまでのサプライチェーンの川上から川下までを網羅しているため、これらの経験は、その他のグループ会社の監査でも大い

に活かされています。仕事ではクライアントの管理職の方々と共通の議題について議論し、ご指導いただくことも多く、恵まれた環境であると感じています。今の私にとって、自分が決めたことを内外の協力者を得て、関係者と協議し一つ一つ変えていくことが一番のやりがいです。自分の考えを共有し、相手の考え・状況を熟慮し、合理的な結論に導くことは、大変ではありますが面白さを感じています。私はこれまで自動車メーカーを中心に仕事をしてきましたが、自分がやりたいと思ったことには関与することができています。任される業務内容も非常に深いので、常に前向きに理解し、改善することが求められると感じています。

マネージャー
小谷 武嗣

Professional Interview

●監査業務

監査業務の中で実感した、 被監査会社の理解の重要性

地方銀行で2年ほど働いた後、2016年12月に入社し、製造業・非製造業の監査業務やIPO監査業務を経験しました。会計士試験の中では、会計基準はもちろん、監査論において“被監査会社の理解”が重要であることを学びます。受験生時代にはこの重要性に関して実感することができませんでしたが、実際に監査業務を通してクライアントのビジネスや各取引の計上プロセス等を理解することで、会計数値に誤りが生じるリスクが高い領域を識別でき、また、財務数値分析を行う上でも、クライアントビジネスの理解は非常に重要であることを実感しました。そして、クライアントに関する理解が徐々に深まっていくにつれ、時として数値誤りを指摘したり、あるいは内部統制の改善提案を行ったりす

る等、クライアントの方々とさまざまな議論ができるようになっていきました。ある日、某クライアントの方から「当社に転職しないか」とお誘いを受けたことがあるのですが、これは私にとって生涯忘れられない、クライアントから頂いた最高のフィードバックです。今後の目標は、監査業務の中で得た知識・経験を活かし自分の実施した業務が直接的にクライアントの利益につながるようなアドバイザリーやコンサルティングなどの業務にも、仕事の幅を広げることです。そのためには高い専門性を身に付けることが必要ですが、何を自分の専門領域とするか、これから見つけていきたいと思っています。

シニアアソシエイト
渡部 稔央

●アドバイザリー業務

監査業務で培った知見を アドバイザリー業務に展開

私は2012年に公認会計士試験合格後、約2年のコンサルティング会社勤務を経て、PwCあらた名古屋事務所に入社しました。入社後これまでの間に監査業務だけでなく、非監査クライアントに対するグループ会計方針書作成支援業務や、財務報告に関連する内部統制構築支援業務など、さまざまなアドバイザリー業務に従事する機会がありました。財務報告に関連する内部統制構築支援業務の一例を挙げると、ある企業から、経理業務に会計数値の誤りが生じるリスクを低減させるための内部統制を構築する上で助言してほしいという依頼がありました。私は同業他社の監査に携わった経験があったた

シニアアソシエイト
木村 哲也

め、監査業務を通じて培った知見を活かして助言すべきポイントを自分の中で整理し、業務の効率化という観点も意識してクライアントに提案を行ったところ、クライアントから感謝の言葉を頂き、大きな達成感を感じることができました。入社当初、監査経験はアドバイザリー業務を行う上で大きな武器になる、と先輩から伺ったことがあります。私はその事を自らアドバイザリー業務に携わってみて強く実感しました。今後も引き続き、監査業務およびさまざまなアドバイザリー業務にチャレンジして実務経験を積み、クライアントが抱える課題解決に役立つ会計士として活躍していきたいと思っています。



プロフェッショナルとして経験を積み重ね
自分自身の可能性をさらに広げていく

●アドバイザリー業務 (SPA)

常に最新のテクノロジーの動向に網を張り巡らしながら 監査業務やアドバイザリー業務のニーズに 柔軟に 대응していきたい

PwCあらた名古屋事務所にて会計監査を経験した後、SPA(システム・プロセス・アシュアランス部)に異動し、現在はシステム監査、データを活用した監査技法の導入や不正調査業務に従事しています。入社当初からシステムや監査におけるテクノロジーの活用に興味を持っており、部門を越えてそういった仕事に関与することで知識が身に付いたと思います。部門の垣根がなく、監査業務とアドバイザリー業務を経験できることは名古屋事務所の魅力です。ビジネスが複雑化するとともに企業が導入する情報システムは増えており、今後は会計士も監査業務やアド

バイザリー業務を実施する上で情報システムに対する知見を深める必要があります。データを活用した効率的な監査の実現、データ分析を活用したアドバイザリー等を実施する上で、会計監査の経験と情報システムに対する知見は欠かせません。近い将来、AIの普及によって社会の在り方にさまざまな影響が与ることが予想されており、監査においてもAI技術が応用され、監査業務の変革が起ることと言われています。今後劇的に変化していくことが想定される監査業界で、新しく出現するテクノロジーを使いこなしながら監査業務やアドバイザリー業務でクライアントのニーズの高まりに応えていきます。

マネージャー
成戸 宏隆